

まちづくりに欠かせない

市債

私たちの生活に欠かせない道路や学校などを整備するための、主な財源となっている市債。今回は、市債とはどういうものか、そしてその借入額や残高について、お知らせします。

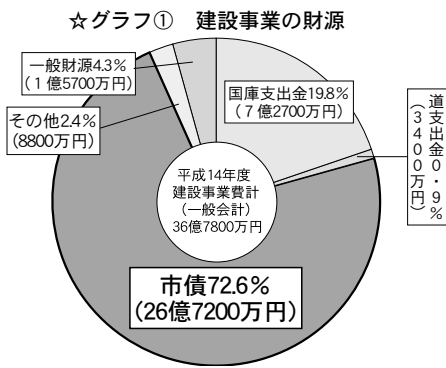
市債とは？

市債は、主に道路や学校などの社会資本を整備するために、国や金融機関などから借りる長期の借入金です。

市は、市税や地方交付税などを財源としてさまざまな事業を行います。しかし、長期にわたって使用し、多額の経費を必要とする道路や学校など公共施設の整備に当たっては、事業を実施する年度の財政負担を減らすため、市債により財源の一部を確保します。

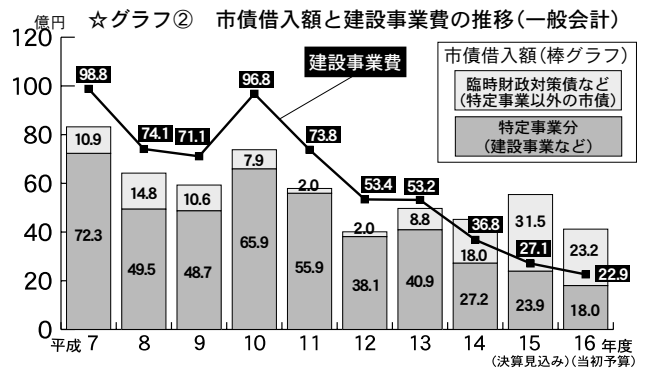
市債の借入額

平成14年度一般会計では、道路や港湾の整備、菁園中学



道路や港湾の整備、菁園中学の校舎改築などの建設事業に36億7800万円を支出しました。このうち、国や道の補助金7億6100万円を除く29億1700万円は、市独自で財源を確保しなければならぬため、26億7200万円(事業費の約72.6%)は市債により事業を実施しました(上のグラフ①参照)。

一般会計における市債の借入額は右のグラフ②のとおりです。建設事業など特定の事業に対する財源として借り入れる市債は、建設事業費と共に大きく減少しています。しかし、13年度以降は、臨時財



政対策債(これまで地方交付税として交付されてきたもの)の一部が、特別な市債として振り替えられたもの)などの特定事業以外の市債が増加しています。

市債の残高

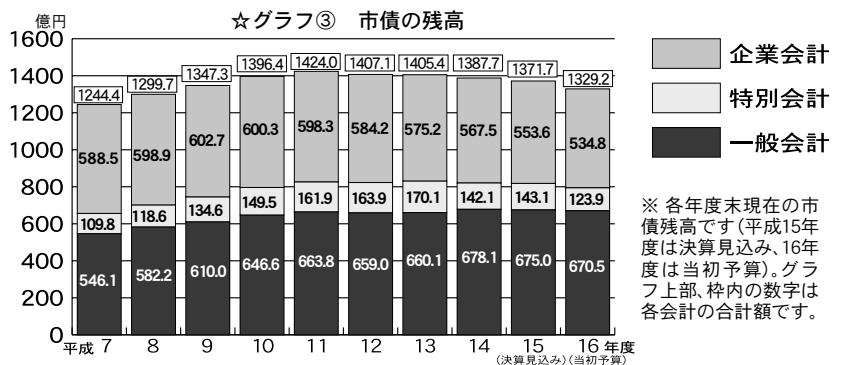
市がこれまでに借り入れた市債の残高(一般会計分)は、下のグラフ③のとおりです。

11年度以前は、公共事業の増加に伴い市債も増加していました。しかし、11年度をピークに減少に転じ、16年度では残高1329億2000万円、市民一人当たり約91万2000円となります。

市債の残高は減少に転じましたが、一般会計の利息を含めた14年度の償還額(返済額)は、147億2200万円、市財政の大きな負担となっています。

計画的な市債の活用

市債は、まちづくりを進めるための貴重な財源として、欠くことのできないものですが、後年度に元利金を償還(返済)



する必要があると見通して、慎重かつ適切に活用していかなくてはなりません。

*** ** **

次回は、人件費・扶助費などの義務的経費と、平成15年度の決算についてお知らせします。

◆財政についてのお問い合わせは、財政課 ☎ 41111 内線 231〜234 へどうぞ。